

第48回地盤工学研究発表会開催される

平成25年7月23～25日(25・26日見学会)に、富山市中心部の富山城趾公園に隣接した3会場で、第48回地盤工学研究発表会が開催されました。地盤工学会北陸支部が中心となった本大会の実行委員会では、「地盤を語ろう—天涯の山々に育まれた地、高志(こし)の国からの発信—」をキャッチフレーズとして、激しく隆起する立山連峰のもとでの度重なる大災害に打ち勝ってきた富山で、大震災後の「再出発」を支援し、地盤技術の輪を大きく広げる「地勢・環境」と「場」を提供するとともに、史実に名が残る「高志の国」で育まれた文化と新たな発想を発信出来るよう、各行事を企画しました。

参加登録者数は、1,737名であり、1,123件の研究発表のほか、特別講演、展望講演、特別セッション(4件)、市民参加企画行事(こども地盤学会、防災体験学習ほか3件)、技術展示(68社・団体、71ブース)、交流会、見学会(3コース)が行われました。大会総参加者数は、約2,450名となりました。

○会場、案内、受付、大会ポスター

会場が3箇所に分かれたものの、案内・受付に地元の建設関連協会、金沢大学・長岡技術科学大学の学生、富山コンベンションビューローのボランティア、支部会員企業の社員の皆さんの協力により、スムーズに運営することが出来ました。

また、一般市民向けの広報活動により、学会活動のPRもある程度は出来たと思います。



口絵写真一 富山国際会議場(メイン会場)



口絵写真二 富山県民会館



口絵写真三 富山市民プラザ



口絵写真四 総合受付(富山国際会議場)